

## 第1章 3つのキー・コンピテンシー

### 1節 OECDのコンピテンシー概念

PISA 調査の分析と評価から、これまでの知識や技能の習得に絞った能力観には限界があり、むしろ学習の意欲や関心から行動や行為にいたるまでの広く深い能力観、人の根源的な特性（コンピテンシー）に基礎付けられた学習の力への大きな視点が必要となってきたことがわかってきた。こうして OECD の DeSeCo プロジェクトは、相当の作業段階を経て、以下の3つのキー・コンピテンシーを提唱した<sup>1</sup>。

- 1 相互作用的に道具を用いる
  - A 言語、シンボル、テキストを相互作用的に用いる
  - B 知識や情報を相互作用的に用いる
  - C 技術を相互作用的に求める
- 2 異質な集団で交流する
  - A 他人と良い関係を作る
  - B 協力する。チームで働く
  - C 争いを処理し、解決する
- 3 自律的に活動する
  - A 大きな展望の中で活動する
  - B 人生計画や個人的プロジェクトを設計し実行する
  - C 自らの権利、利害、限界やニーズを表明する

キー・コンピテンシーはどのように定められたのだろうか。ライチェンによれば、それは「全体的な人生の成功と正常に機能する社会という点から、個人及び社会のレベルで高い価値をもつ結果に貢献する」「幅広い文脈において、重要で複雑な要求や課題に答えるために有用である」「すべての個人にとって重要である」という3つの基準に基づいているという<sup>2</sup>。

ライチェンがキー・コンピテンシーの理論的基礎として重要視するのは、反省性（reflectivity：個人による人生への思慮深いアプローチという意味において）である。非常に複雑な現代の世界と社会を生き抜くに当たり、われわれはさまざまな情報、社会関係、経験、感情を総動員して思考し、対処しなければならない。このためには思慮深さないし反省的思考（reflective thinking）を養うことの重要性が改めて分かってきたのである。

この「思慮深さ」ないし「反省的思考」「熟慮」（reflection）は、きわめて重要な概念である。これは言うまでもなく、戦後日本の問題解決学習に大きな示唆を与えた<sup>3</sup>ジョン・デューイの教育思想に合致する<sup>4</sup>。デューイと問題解決学習については本報告書の補論で詳述されるが、われわれの調査研究においても、実践の分析においてその重要性が極めて強く認識されるに至った（後述）。

---

<sup>1</sup> 立田慶裕氏、文献①監訳者序言

<sup>2</sup> 文献①第3章

<sup>3</sup> たとえば文献⑤、⑥など

<sup>4</sup> 文献③、④

## 2節 尚綱学院中学校高等学校の取り組みと実践

尚綱学院は、1892年にアメリカ合衆国のバプテスト派の女性宣教師によって建てられたキリスト教主義の学校である。元来女子校であったが、2003年の短期大学の改組転換による四年制大学を開学以来、法人名を「尚綱学院」と変更し、中高も2008年度入学生より男女共学となり今日に至っている。2012年現在、中学校は各学年1クラス計63名、高等学校は24クラス725名が在籍している。学院全体としては幼稚園、中学校・高等学校、大学、大学院を備えている。

中学校は2009年度入学生より、中高一貫コースと位置付けてカリキュラムを一新し、中学校課程終了後は基本的に高等学校特別進学コースに接続する、併設型の中高一貫教育校として新たなスタートを切った。2012年度現在、第一期生が高校1年生となっている。

尚綱学院中高の教育目標は「キリスト教を土台として 人間のあり方を探り 他者と共に生きる」である。これに加えて中高一貫コースでは、「社会の中で『地の塩』『世の光』として働く人間」を育て、「神と人に仕え、市民として『共に生きる』社会を創造する責任をすすんで果たす」人材を世に送り出すことを目指して教育活動に励んでいる。

さらに本校の中高一貫コースでは、生徒たちに身につけさせることを目指す学力を「国際標準の学力」とうたい、以下のように掲げている。

- I 互いに異なった他者と良好な関係をつくり、協働できる力
- II 自律的に活動できる力
- III 様々な道具を相互作用的に使いこなす力

言うまでもなく、前節で述べた OECD DeSeCo の3つのキー・コンピテンシーをストレートに反映させたものである。中学校の3年間ないし中高の6年間は、「考え型の授業」を中心に、「探究」「共生」と呼んでいる総合的な学習の時間と、発達段階に応じた各種プログラムを組み合わせ、この「国際標準の学力」をめざして組み立てられている。

表1 尚綱学院中学校・高等学校 中高一貫コースの6年間の学びの位置づけ

	学びの土台づくり		学びの構築		学びの完成	
	基礎学力・探究心育成期		問題解決能力の向上期		学びの実現	進路の実現
	中1	中2	中3	高1	高2	高3
目標	学ぶ楽しさや、チャレンジする喜びを知る。	「なぜ」と問いを立て探究しようとする	自ら考え、見通しを立てて行動する	グローバルに考え、ローカルに行動できる	学びを総合し、進むべき方向を見出す	各自の進路実現に向けて取り組む
主な行事	サイエンス・キャンプ	イングリッシュ・キャンプ	プロジェクト・キャンプ	海外研修 主題研究	修学旅行 <sup>5</sup>	

このうち中学3年での「プロジェクト・キャンプ」と高校1年での「海外研修」が、本研究の対象とするプロジェクト型宿泊研修である。これらの詳細は次章に譲ることとして、本校の総合学習「探究」「共生」について少しく述べたい。

本中学校では従前からの総合的な学習の時間「共生」に加えて、中高一貫コースの立ち上げの際にプロジェクト・ベース学習（以下、PBL）を軸とする「探究」の時間を設けている。「共生」は主にキリスト教教育週間の事前・事後学習や平和学習、奉仕活動に充てられるが、年間の指導計画全体の中で、「探究」およびロング・ホーム・ルーム（以下、LHR）との柔軟な組み合わせにより、PBLや各種の探究的

<sup>5</sup> 2013年度からの修学旅行もプロジェクト型研修の要素を盛り込む予定。

プログラムのための時間に活用している。

表1の「主な行事」に掲げた、中学1年のサイエンス・キャンプ（2泊3日で自然・先端技術などを体験・発見し、学びをプレゼンテーションするもの）や中学2年のイングリッシュ・キャンプ（英語に親しみ、英語コミュニケーションを学びながら、共生のテーマに関する自分の考えを英語で発表するもの）の事前・事後学習、プロジェクト・キャンプおよび海外研修の取り組みのほか、中1秋の地域フィールドワークの取り組み、中1（2013年度より中2）で行っている東北大学医学部と連携したサイエンス・パートナーシップ（以下、SPP）やキャリア教育もこの枠内でやっている。また、各学年とも年間計画の中で年2回のチーム及び個人PBLに取り組む。

表2 尚綱学院中高一貫コースにおける総合的な学習の流れ（高1までから抜粋）

1年(中1)「学びの土台づくり」													
	入学前	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学習・進路		実力テスト①	サイエンスキャンプ 諸テスト①	陸上記録会 前期中間考査・ フォローアップ	*天文台学習 (2012年度)	夏期講習 実力テスト② 諸テスト②	前期期末考査・ フォローアップ		校外学習(地域 フィールドワーク) 実力テスト③	後期中間考査・ フォローアップ 冬期講習	天文台学習 諸テスト③(漢 字) 漢字検定(全員)	諸テスト③(数、 英)、先輩を囲ん で、トイックブリッ ジ(全員)	学年末考査 学習発表会
生活・自治		生徒会ガイダン ス クラブ集会 縦割りHR	CAPワークショップ 春季生徒総会・ 社行会	中総体 性教育講演会	公開理想協 生徒会選挙 県中総体		尚綱祭	新人大会 クラブ集会 秋季生徒総会			球技大会		
キリ教・共生			キリ教週間(花 の目礼拝・施設 訪問、講演)		平和祈願礼拝			キリ教週間(取 組感謝礼拝・施 設訪問、講演)	創立記念礼拝	クリスマス礼拝		信教の自由を守 る日礼拝	
総合(探究・共生)		自分プロジェクト	個人PBL①		平和学習		地域の水環境と まちづくり	奉仕を学ぶ	個人PBL②	キャリア・ワーク ショップI		開発教育ワーク ショップ	
2年(中2)「学びの土台づくり」													
	春休み	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学習・進路		実力テスト①	サイエンス・ パートナーシッ プ	陸上記録会 前期中間考査・ フォローアップ	イングリッシュ・ キャンプ	夏期講習 実力テスト② 諸テスト②	前期期末考査・ フォローアップ		職場体験 実力テスト③	後期中間考査・ フォローアップ 冬期講習	諸テスト③(漢 字) 漢字検定(全員)	諸テスト③(数、 英) 先輩を囲んで トイックブリッ ジ(全員)	学年末考査 科学館実習 学習発表会
生活・自治		クラブ集会 縦割りHR	春季生徒総会・ 社行会	中総体 性教育講演会	公開理想協 生徒会選挙 県中総体		尚綱祭	新人大会 クラブ集会 秋季生徒総会			球技大会		
キリ教・共生			キリ教週間(花 の目礼拝・施設 訪問、講演)		平和祈願礼拝			キリ教週間(取 組感謝礼拝・施 設訪問、講演)	創立記念礼拝	クリスマス礼拝		信教の自由を守 る日礼拝	
総合(探究・共生)		個人PBL③					キャリア学習	キャリア・ワーク ショップII	プロジェクトキャ ンプ事前調査			開発教育ワーク ショップ	
3年(中3)「学びの構築」													
	春休み	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学習・進路		実力テスト①		陸上記録会 前期中間考査・ フォローアップ		夏期講習 実力テスト② 諸テスト②	前期期末考査・ フォローアップ		プロジェクト・ キャンプ 実力テスト③	後期中間考査・ フォローアップ 冬期講習	実力テスト④ 諸テスト③(漢 字) 漢字検定(全員)	諸テスト③(数、 英) 先輩を囲んで トイックブリッ ジ(全員)	学年末考査 学習発表会
生活・自治		クラブ集会 縦割りHR	春季生徒総会・ 社行会	中総体 性教育講演会	公開理想協 生徒会選挙 県中総体		尚綱祭	秋季生徒総会			球技大会		
キリ教・共生			キリ教週間(花 の目礼拝・施設 訪問、講演)		平和祈願礼拝			キリ教週間(取 組感謝礼拝・施 設訪問、講演)	創立記念礼拝	クリスマス礼拝		信教の自由を守 る日礼拝	
総合(探究・共生)		個人PBL④			プロジェクト・ キャンプPBL				キャリア学習	個人PBL⑤ (主題研究)		開発教育ワーク ショップ	
4年(高1)「学びの構築」													
	春休み	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学習・進路		レギュラー講習、 スタサポ、(学習 合宿)、進路ガイ ダンス	スタサポ分析報 告	科目選択、前期 中間考査	模擬講習、模擬 試験、夏期講習	模擬試験、	前期期末考査		模擬試験	後期中間考査、 冬期講習会	模擬試験		学年末考査、ス タサポ
生活・自治		クラブ集会	春季生徒総会・ 社行会	高総体	生徒会役員選挙	尚綱祭		運動会(競技大 会)、新入戦、秋 季生徒総会					
キリ教・共生			キリ教週間(花 の目礼拝・施設 訪問、講演)		平和祈願礼拝			キリ教週間(取 組感謝礼拝・施 設訪問、講演)	創立記念礼拝	クリスマス礼拝		信教の自由を守 る日礼拝	
総合(探究・共生)		海外研修PBL			海外研修		個人PBL⑥ (主題研究)						論文提出 プレゼンテー ション

本校のPBLは日本PBL研究所<sup>6</sup>に学んだものである。個人またはチームがプロジェクトのテーマを設定し、企画書にプロジェクトのゴールと自分にとっての意義・社会にとっての意義を明記し、レイアウトおよびプロジェクトの計画、教科との関連を明記し、担当教員（担任・副担任、総合担当教員）との助言を得ながらプロジェクトを推進するものである。各プロジェクトは、実在する人物からのインタビューを行うことを必須とする。最終的にはプロジェクトの成果をパワーポイントやポスターにまとめ、クラス内で発表する。教員と生徒の総合評価でクラス代表に選ばれたプレゼンテーションが、9月の文化祭や3月の学習発表会で発表されることになる<sup>7</sup>。

プロジェクト・キャンプと海外研修は、以上のような探究活動の延長線上に位置づけられているのである。

写真1 中1サイエンス・キャンプの様子



写真2・PBL フェスタ 2012 の様子



<sup>6</sup> 理事長・上杉賢士氏（千葉大学教授） URL <http://www.pbl-japan.com/index.html>

<sup>7</sup> 2012年3月に千葉大学で行われたPBL フェスタ 2012に中学1年生4名のチームが出場し、「広瀬川の水環境」というテーマで発表した。ちなみにこの回のステージ部門のグランプリとなったのは、本校高校2年生の「ホームレス問題」に関する発表であった。